

第二十四回中央教化研究会議

一、開催趣旨

(1) 中央教化研究会議は、広く法華経教化について論議し、具体的方策を樹立することを目的に開催されます。

(2) 中央教化研究会議は、各管区の教区教研運営委員を中心として、管区・教区での教化活動の現状を話し合い、第二期お題目総弘通運動推進に係わる諸問題を検討致します。

(3) 各部会での討議を通して、教学の現代化、教育問題、青少年教化等に取り組み、問題の把握、解決、教材資料の作成をめざします。

(4) 論談を通して、日蓮一門、地涌の菩薩としての意識をたかめます。

二、全体会

(1) 記念講演 「立正佼成会の教化活動」

立正佼成会教育部長 齋藤安彦師

(2) 討論会 デイベート形式による討論会

テーマ① 「仏教会」

② 「法号」

(3) 教化研修 「立正佼成会訪問研修」

三、部会

○第一教学部会 「死後はどうなるか、あなたはどうか生きるべきか」

現在、臨死研究が近代合理主義のパラダイムを揺り動かし、人々の生死観に大きな変化をもたらそうとしています。当部会ではこの問題に対する理解を深めたいと考えています。

○第二寺檀部会 「無住寺院の活性化」

これからの新しい檀家制度というものを考えていく上で対策が望まれている問題として出てきた無住寺院の活性化とその墓地利用等を含む諸問題について考えよう。

○第三法器養成部会 「幼少期より青年期までの法器養成」——出家、得度、沙弥校を踏まえて——
今日まで、宗門の人材不足と質の低下が叫ばれて久しい。今、ここで、宗門に於ける子弟教育に、もう一度目を向ける必要がある。今回、特に、信行道場入場以前に於ける子弟教育について考えてみたい。

○第四世代別教化部会 「女性から観た家庭信行のあり方を問う」

第二期お題目総弘通のテーマである「家庭信行」を実践していくに当たり、家庭の中心的存在である女性（母・妻・娘・姑）の方々から問題提起をして頂き、教師のあり方を考える。

○第五教化伝道ネットワーク部会 「寺院のネットワーク化をどのように図るか」

——その実例と今後の課題——

この部会では、寺院間での情報交換の必要性を確認し、ネットワークづくりを考えてきたが、パソコン通信、ファクシミリ通信、等を現実に活用している上人方の報告と、さらに今後の課題と展望を探ります。

○第六社会問題部会 「日蓮宗医療問題研究会の活動について」

- ・ 医療問題に対する教典・教学的な基礎づけ（日蓮教学的なアプローチ）
- ・ 他宗の医療問題への取り組み方の具体例

○第七立正平和部会 「日蓮宗の信仰と平和運動」

立正安国がいま鋭く問われています。各種の活動事例を通じ、宗教協力を伴う平和運動のあり方等

を日蓮宗の信仰との関連性の中で検討します。

四、開催方式

今回の中央教化研究会議は、次の方式で運営する

- (1) 部会制により会議を行う。
- (2) 出席者は一部会を選び、七月二十五日までに教務部宛に参加申し込みをする。参加者には、事前に会議資料・参考資料などを送付する。
- (3) 出席者は、送付された参加部会のテーマ・討議内容・参考資料などをもとに準備をし、開催当日は各部会毎に討議をする。
- (4) 会議において討議されたものは、教区の教研会議の資料や今後の教化のハンドブックとして役立てられるようにまとめる。
- (5) 教化研究の一助として、他教団を訪問し、その教化方法を研修する。

五、会 場 朗峰会館 電話 ○三―三七五二―三一〇五

六、宿 舎 朗峰会館

七、参加者 宗務所長より推挙委嘱された教区教研運営委員、或いは各部会に関心があり継続して取り組める管内教師(管区二名)。

八、持参品 ○会議資料・数珠・折五条・布教服・筆記用具・洗面用具

○各寺・各団体発行の教化資料

九、日 程 ◎第一日目 九月四日(水)

受 付 九時〜九時三十分

開 会 式 九時三十分〜十時

記念講演 十時～十二時

昼食 十二時～十三時

討論会 十三時～十四時三十分

部会別討議 十五時～十七時三十分

夕食 十八時

◎第二日目 九月五日(木)

朝食 七時三十分

部会別討議 八時三十分～十時

全体会議 十時十五分～十一時十五分

イ. 部会報告

ロ. 立正佼成会訪問研修ガイダンス

閉会式 十一時十五分～十一時三十分

出席 十一時四十分(車中昼食)

教化研修 十三時～十五時

解散 十五時